

マルティネルの街角で

YKI 国際特許事務所 弁理士◇葦原 エミ
ashihara.emi@yki.jp

Vol.30 ウェッジウッド・ブルーに至るまで

「あたいへん！ 12時の鐘が鳴ってしまうわ！」

後を追う王子さまを残して、一気に階段を駆け下りるシンデレラ。。……な～んてシーンが美しいのは、片方の靴が脱げつつも、シンデレラが逃げ切れるからだ。

でも、ぜーったい無理だよ。10cmはありそうなガラスの靴。グギって捻挫してシンデレラはその場で御用ってのが現実的。なぜ、女性はハイヒールを履くのか？

それがカッコいいと思うこと自体、男性目線からの価値観でゆがめられた認識ではないか？ なんて、ヤボな議論はやめておこう。10cmピンヒールは理屈抜きでcoolだ。

が、靴は歩く場所を選ぶ。ピンヒールを履きたければレッドカーペットか（一生その機会はない）。

たかが5cmのパンプスでパリの石畳を歩いた時は「これって拷問？」と心底泣いた。そういえば、「足が痛すぎて靴を買いに行ってきた」と待ち合わせにえらく遅刻してきた代理人がいたっけな。

そう、置き靴ができる職場ならまだいい。問題は、お仕事っぽく装いつつ、あっちこっち長時間歩き回る出張時だ。べったんこか、5cmか、7cmか、はたまた、これらの組み合わせ？ 靴の選択は最重要課題である。

そういえば、某国際会議で開催された「Women in IP」でのこと。

「男性諸君は考えたことある？ 私たちがこうした会議に何足の靴を持ってきているかって！」のコメントに、思わずみんな拍手喝采。4～5日同じ場所に集まって毎日顔を合わせる人もいる。ファッションに無頓着な筆者でも、さすがに毎日同じ服でいる勇気はない。

「男は楽だよな～、ネクタイさえ替えれば、かなり違った印象を与えられるのだから」と嫌みの一つも言いたくなる。

Anyway、筆者は大抵、しわにならない柄物ワンピースに着て、黒っぽいジャケットと白っぽいジャケットを用意する。これに合わせ、やっぱり、黒っぽい靴と白っぽい靴も用意。では、2足でOKか？

ところがどっこい、会議・セミナーのみならず、ランチだ、ディナーだ、遠足だ、と、たっぷりごっちゃりスケジュールが書かれているプログラムには、通常「smart casual」だの、「business attire」だの、「formal」だのとドレスコードが記載されている。要は、「お仕事用」の他に「おしゃれ用」も考えろってこと。

ガラ・ディナー？ 上等だ、ロングドレス？ 着てやろうじゃないの！ なんて思うと、それ1回だけのための靴も用意するはめになる（そんなことを厭うてか、最近ではドレスダウンする傾向にあるらしいけど）。

靴はスーツケースの場所を取る。いっそ、お仕事用は1足で、と腹をくくったときに限って雨、雨、雨。激しく降る雨の中、靴の中で金魚が飼えそうな経験をすると「ああ、靴だけはいっぱい持ってくる！」と心に誓う。だからやっぱり2足かな。

ってなわけで、最近、靴のことばかり考えている。踵も値段も高い靴で失敗することを恐れ、ローヒールの安物を履きつぶすこと

を繰り返していた筆者もさすがに気がついた。靴選びは大切だ！ 靴職人さんが作っている店を紹介してもらい、訴えてみる。「ビジネスシーンで使えて、おしゃれで、長時間履いても疲れず、石畳も歩いて、雨の日もOKなハイヒールください！」。

そして防水スプレーとウェッジウッド・ブルーの靴を購入した。このマジカルな靴と共に、今度はどこに行くだろう。

